

●構わないと思う。ただ、国の将来という点で考えると、この先、高齢社会となるのに、その時代を背負う子どもが減っていくことにつながるので、これではいけないと思う。
(主婦 36歳)

●結婚生活をしないと物の考え方や見方が偏りがちだと思います。夫や子を持つことで得られるものは、自分だけの職業や生活より大であると思います。
(主婦 44歳)

●この風潮は増大していくと思われる。男女雇用機会均等法の施行や、労働基準法改正などにより、女性の社会進出はめざましい。労働力不足に拍車がかかっている現状では、社会の要請でもある。女性性は、結婚すると家事や育児が重い負担になるのを見ているので、仕事を続けたい人は結婚しながらないのだと思う。
(塾講師 55歳 既婚)

●女性も職場に出て仕事をし、能力があれば男性と肩を並べてやっていける世の中ですから、仕方がないことと思う。
(農業者 57歳 既婚)

●相手のために努力することや、子孫を絶やさないと考えないのではありませんか。本当に何もかも自己中心で「老いたら老人ホーム

に入れればよい。」など、煩わしいことから逃れたい人が多いというが、考え方が変わってきていることは事実です。
(ピアノ教師 74歳 既婚)

結婚は、どう変わると思いますが？ また、どのように変わってほしいと思いますか？

●あまり変わらないと思う。

(男32歳 女25、42歳他)

●ますます未婚が増えると思うが、結婚は、自然の形が一番いいと思う。
(会社員 28歳 未婚)

●はつきりと二極化される。すなわち、結婚したがる人としたがらない人に分かれると思う。
(研究員 27歳 未婚)

●やはり、人は一人では生きていけないと思うから、パートナーを欲し合うのだろう。結婚という形式を選ばない人もいると思うが、そうは増えないのではないかと。
(主婦 37歳)

●結婚はしなくても「よい相手がいるから。」という人が多くなると思う。本当にしっかりした人ならそれでもいいが、ちよっぴり寂しい気がする。
(主婦 28歳)

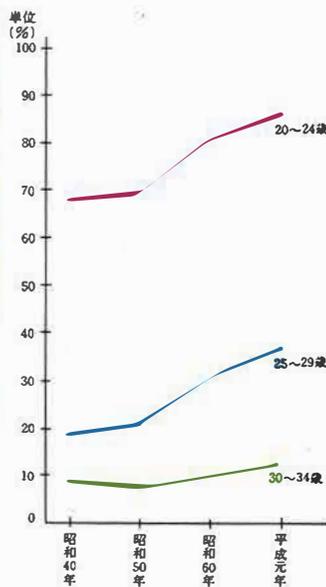
●シングルの人が増えて、家庭を持つている人と二つの社会ができてしまえそう。結婚に対する世間の考え方も変わると思う。
(会社員 33歳 既婚)

●特に女性は二極化していくと思う。結婚しても、安心して仕事も子育ても両立できるように、家族だけでなく、行政や企業などでもバックアップしていくことが急務であると思う。
(パート 55歳 既婚)

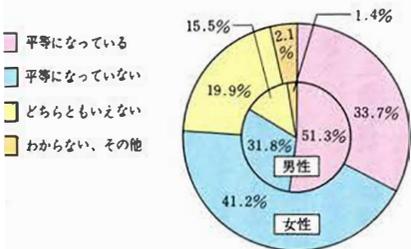
●結婚という形に縛られずに、互いに尊敬できる二人が一緒に暮らし、生活していければよいと思う。
(塾講師 32歳 既婚)

●何歳までに結婚しなければいけない、結婚したら一緒に暮らさなければならぬという形式のようなものは無くなると思う。
(会社員 43歳 既婚)

女子未婚率の推移



家庭の中での男女の地位



シングルが語る 独身生活・結婚の利点

独身生活の利点	結婚の利点
第1位 行動や生き方の自由	第1位 精神的安らぎ
第2位 広い友人関係	第2位 子供や家族を持つ
第3位 家族扶養のない気楽さ	第3位 現在愛する人と暮らせる
第4位 金銭的余裕	第4位 親や周囲の期待に応えられる

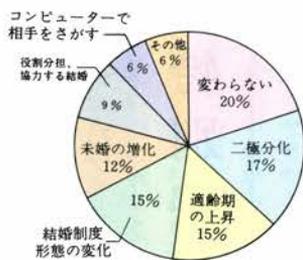
資料：総務府「女性に関する世論調査」平成2年9月

資料：厚生省人口問題研究所「独身者の結婚観に関する全国調査」昭和63年9月

資料：総務庁「国勢調査」平成元年は総務庁「労働力調査」をもとに算出

結婚って何？

「結婚はどう変わりますか？」



—アンケートから—

● 世間体を気にして不本意な結婚をする人が減ると思う。結婚さえすればすべて何とかなると考える女性、女は結婚して家庭を守るのが一番だと考える男性が少しでも減ってほしいと思う。

(会社員 24歳 未婚)

● 結婚後も女性が仕事を続けていくのが当たり前になると思うので、お互いを尊重し、話し合いのもとで役割を分担し協力し合っていく結婚であってほしいと思う。

(主婦 36歳)

● 結婚年齢が上昇すると思う。様々な結婚スタイルが続出すると思うが、行き着くところまで行くという原点に戻らないう。結婚生活となるといまだに「男性社会の世の中」。女性の負担が減る風潮を願う。

(主婦 28歳)

● シングルで過ごしてきた場合は、いろいろな事情がある場合が多い。チャンス、病気、環境などを考えると、その人たちをおかしいと思うことはできないのではないかと。

(主婦 44歳)

● 自分としては、結婚願望もありませんが、シングルであってもそれなりに価値を見つけていけば、構わないと思う。

(塾講師 32歳 未婚)

● ずっと独身のまま充実した人生を送れる人はそれでよいと思うが、私自身は、特に中年以降は寂しくて耐えられないと思う。結局、誰でも家族が欲しくなるんじゃないかな？

(研究員 25歳 未婚)

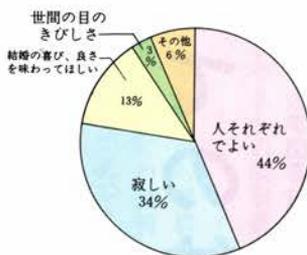
● 命を頂いた大自然の法則に対して、何のお返しもしないで終わることは寂しいことでもあり、世の中に借金をしたままのような気がします。

● どうも思わない。しかし、長期的にみれば家族を構成するという社会への貢献はなくなるが、



シングルで一生過ごすことに
どう思いますか？

「シングルで一生過ごすことについてどう思いますか？」



—アンケートから—

● 一生かけて続けていきたいことがあれば構わないと思う。しかし、無条件に理解し、愛し合える人と出会って一緒に過ごせる喜びにはかなわないような気がする。

(研究員 25歳 未婚)

● どうも思わない。しかし、長期的にみれば家族を構成するという社会への貢献はなくなるが、

(研究員 27歳 未婚)

● 若いうちは好きなことができて楽しいが、年をとるにつれて寂しくなると思う。

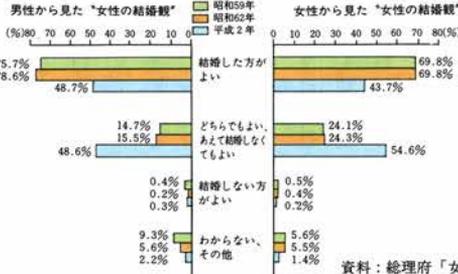
(23、26、28歳 未婚)

女性の社会参加に必要な対策

第1位	女性が社会参加できるような学習や訓練の機会を増やす
第2位	男女対象に仕事と子育ての両立を支援する体制の整備を図る
第3位	女性の社会参加に関する情報が身近にわかることを増やす
第4位	家庭責任を男性(夫)にももっと担ってもらう
第5位	女性の社会参加を進めるための啓発活動をする
第6位	学校で女性参加の必要性を教える

資料：総理府「女性に関する世論調査」平成2年9月

女性の結婚観



資料：総理府「女性に関する世論調査」平成2年9月

新しい結婚への道

よりよい男と女の結びつきを求めて

特別寄稿 人間関係としての結婚

大学図書館司書
女性問題懇話会「それいゆ」主宰

尼川洋子



二十代から三十代、私はずいぶん「結婚」にこだわり続けてきたと思う。二十代前半のこだわりはもちろん、「結婚するか、しないか」ということだった。ほんの二十年代ぐらい前のことなのに、その頃、多くの女性たちは、二十四歳までに結婚していて、二十五歳を過ぎて独身でいるにはかなりの強い意思を必要とした。今のように、「結婚しないかもしれない症候群よ」と言っているのけれども、結婚はせねばならないもの」という思いをどこかにこびりつかせつつ、でも、結婚＝嫁の構図への嫌悪もぬぐいがたく、自身の悩みは深まるばかりだった。

そんな悩みの淵から私がふっと浮上したのは、友人たちが次々と

「会費制結婚式」をあげ始めてからである。結婚する二人のまわりの仲間が実行委員会を作り、会費を集めて結婚式を主催する方式は「人前結婚式」と呼ばれることもあったが、その基調には結婚は「家」と「家」ではなく、「個」と「個」の結びつきなのだという主張があった。親たちはその新しい形式に「家」をないがしろにしていると反対したり、とまどったりしつつ、でも、最後には自分の子供がたくさんの仲間に囲まれ、社会の中で自立しているのを目の当たりにし、納得していった。私もまた、嫁ではなく、女と男がそれぞれに一人の人間として結びついていく「結婚」に眼をひらかれる気がした。私にとって「家」の重圧下にあった「結

結婚って何？

婚」が解き放たれた。そして、こんな結婚だったらしてもいいなあと思っただ。

私自身の結婚は二十七歳の時である。もちろん会費制結婚式。仲人もなく、それぞれの親しい友人が結婚の保証人となって婚姻届に署名した。結婚が女の枷にならぬ、新しい結婚をしたのだ！と私は心の底から思った。一九七四年のことである。

今、ふりかえればその「新しい結婚」は外側と玄関だけが完成した家のような状態だったのだということがわかる。中味ができていなかった。私が結婚してまもなく、会費制結婚式のトッパをきった友人が離婚した。これは大きな衝撃だった。彼らの離婚にいたる経過を身近に見つ、「新しい結婚」がどこで挫折していくのか、何度も考えた。実際に結婚してみても、私の内にも何かモヤモヤとたまる思いが生じてきていたからである。

仕事と子育ての両方を担い、疲れ、夫とそれを分かちあえないことに絶望していった彼女と、「仕事で忙しいんだから仕方ないじゃないか、まわりの男たちもみんなそうじゃないか、何でそんなことで離婚しなきゃならないんだ」という彼と、このくいちがいはいった

い何から生まれたのだろうか？
こだわった結果、私は一冊の本を書いてしまった。「結婚そして夫婦・家族」がそれである。

一九七五年、国際婦人年、女性問題がクローズアップされ、私は初めて「性別役割分業」という言葉を知った。そうだったのか！

「新しい結婚」はたしかに男と女の個と個としての結びつきとして始まった。でも、結婚そのものの中に伝統的に内在していた性別役割分業に対しては、まだ十分に意識が及んでいなかったのだ。共働きという生活形態をとっていても、私たちの描く家庭像は「男は仕事、女は家庭」だったことに私もだいたいぶたつてから気がついた。仕事も家庭も担わざるをえなくなった女たちにとって、それは苦しい矛盾だった。どうすれば「役割」を脱し、男と女が人間として結びつく関係として「結婚」を成就させられるか、「新しい結婚」の前には大きな課題が横たわっていた。

その課題は夫たちに対する「家事・育児を分担して！」という妻たちのつきつけて発露したと思う。「手伝うっていうのではなく、自分自身のこととしてやってほしいのよ」、私自身も夫に何度も何度も言った。十七年たつて、やっとそ

のことは実ってきたようである。数日間の不在の後、子供たちに「どう？お父さん、ちゃんとごはん作ってくれた？」と聞いたら、「うん、がんばっていたよ。もうお父さんは大丈夫、一人で生きていける」という最大級の評価がかえってきた。

「結婚」は今、過渡期にあるのだと思う。「新しい結婚」はまだ発展途上である。一個の人間どうしとして結びつきたいという願いが「別姓結婚」という方向で追究されているかと思えば、なかなか変らない、変りたくても仕事にがんじがらめに縛られ、疲れてしまった男たちと労多くかかわるより、シングルライフの方がいいわという女たちもいる。男たちもそれならばと、日本からアジアへと手をひろげて、花嫁をさがしたりしている。でも結婚をめぐるさまざまな現象は結局のところよりよい男と女の結びつきへの問題提起なのだと思う。

流れは「役割」から解放された「人間関係」としての結婚へ。私たちは今、次の世代にむけて、モデルを提示すべく、懸命に模索しているといえないだろうか？

プロフィール

1947年 熊本・天草の生まれ
1972年 神戸市立外国語大学卒業
1981年 神戸で女性問題懇話会「それいゆ」を
発会させる

[著 書]

「結婚そして夫婦・家族」(汐文社)
「女の本がいっぱい」(創元社)
「結婚の午後」—共著(ユック舎)

[職 業] 大学図書館司書

自己表現の勉強を

文章を書く練習をする。そして自分の考えをまとめられるようになったら、小説でも書いてみたい。また、ギターの練習をしたり、作曲を学んだりして歌を作る。要するに、私の考えや、思っていることを形にする方法を身につけて、表現したいのである。

(20代 女性 研究員)

思いつきスポーツを

学生時代は、バレエ、テニスとスポーツが大好きだった私。今は子供と一緒にできる親子体操で汗を流す程度。保育所付きのスポーツ施設も近くにはないし、思いつきりテニスコートを駆け回って、自分のために、汗を流したい。

(30代 主婦)

温泉へ

海の見える温泉へ、ゆっくり行ってみたい。一日中、ぼんやり海を眺め、日が沈みはじめ、あたり一面が夕陽に染まる景色の中に身をおき、夜はゆっくり温泉につかる。

(30代 主婦)

のんびりの背に揺られたい...

とにかく外国へ行ってみたい。まだ一步も国外へ出たことがないから。人類発生の地、アフリカ大陸で、日の出を仰ぐのが長い間の夢だった。どこまでも果てしない砂漠を、らくだの背に揺られながら旅を続ける。

(40代 女性 塾講師)

手作りの新米

農業をしたい。苗代を作り、もみ播きをして、早苗取り、田植え、田の草取り、稲刈り、脱穀、もみ摺り、これぞ真正銘の手作りの新米です。雨の日は読書や創作をする。『晴耕雨読』の素晴らしき日々を送りたい。

(50代 主婦)

ライターに挑戦

全く自由に過ごすなんて夢みたい。でも私ならば、本をたくさん読んで、気の向くままに旅をして、その土地の文化や人に直接触れてみたい。その時の感動や気持ちを、素直に文章に表して残したい。

(20代 女性 会社員)

家族や友との語らい

早起きして、美味しいお料理を沢山作って、美味しくお料理に盛り付けて、お花を飾って、お洒落したら、大好きな友達を呼んで、家族もみんな一緒に、お酒と食事を楽しみながら、ずっとずっと語り明かしたい。

(20代 女性 会社員)



ワーマンスクランブル

...ちょっとお耳を拝借いたします...

ゆとりを追求

仕事も、家事も、子育ても、勉強も忘れて
自由に過ごす時間があったら...
あなただったら何をしますか?
夢のような時間を追いかけてみました。

ワイプロをマスター

せっかく買ったワイプロ。子供たちに、いたずらされることもなく、御飯の仕度と気がせくこともなく、ゆったり、じっくりマスターして、夫をあとといわせたい。

(20代 主婦)

草原で昼寝

広い草原で、寝ころがっていたい。

(18歳 女性 学生)



心はペルーへ

そんなの決まっています。南米のペルーに行き、古代インカの遺跡や、ナスカの地上絵、アンデス山中にわき出る鉱泉。そしてフォルクロレの調べ。みんな、自分の目で、耳で、肌で確かめたい!!

(20代 女性 会社員)

土にまみれて

庭の手入れをしたい。草取り、剪定、そして肥料を与える。プランターに草花の苗をきれいに植え、菊の鉢の手入れもして、蘭の鉢を入れる温室も作ってみたい。

(60代 男性 会社員)

手作りの服

外へ出かけずに、家の中で、普段ゆとりできないことをやってみたい。たとえば、買いおきしてある布地で、洋服を縫ってみたい。

(30代 主婦)

未知の世界へ

未来へ、タイムトリップしたい。

(30代 女性 会社員)



ボランティアの時間に

何もしたくない。これが正直な気持ちだけれども、そうも言っていないので、そんな時間があれば、ボランティア活動をした。

(40代 男性 会社員)

自然の中で

空気がきれいで、自然に恵まれた田舎に引越して、何も考えずに、のんびり気ままに暮してみたい。

(20代 男性 会社員)

山歩き

ワンダーフォーゲルを学んで、ゆったりと日本アルプスなどの山を歩きたい。

(40代 男性 会社員)

秘密の基地へ

木の上に、秘密の基地を作って友達と遊びたい。

(11歳 女子 小学生)

ゴルフ

世界中の名門といわれるゴルフ場で、ゴルフをしたい。

(40代 男性 会社員)

さまざまな意見に、なるほどなるほどと、うなづくことばかり。皆、やりたいことを胸に秘めながら、生活しているんだなあと痛感しました。もしこれが、本当に実現したらすばらしいことだろうけど、一歩でも近づけるように努力することが、大切なかもしれませんね。